

キャラクター名
大橋 佑弥

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー エグザイル	ワークス	ボディガード	カヴァー	フリーター
オプション		年齢	25	性別	男
覚醒	渴望	衝動	自傷	初期侵食率	47 %
出自	妹	経験	無為	邂逅	美奈瀬 夏樹

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	79
肉体	3	1	0			4	行動値	4
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	7
精神	1	0	0			1	戦闘移動	12
社会	1	0	0			1	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:	2		芸術:			知識:			情報:裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
従者の盾	白兵	4r-1	8	2		従者のみ装備

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
従者の甲冑		10	-5	-3	従者のみ装備

所持品	
鋼の意思	

合計装甲: 10 合計回避: -5

ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ リス 消費
[62] 守護者/ガーディアン	P	N	
命の恩人/絶世の美女	純愛	N 憐憫	
美奈瀬 夏樹	P 純愛	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	
	P	N	

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
赤色の従者	1	5	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 「従者」召喚								
声なき子ども	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: シーン間召喚可能従者数+Lv								
愚者の兵装	2	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 従者専用アイテムをLv個常備化								
異形の刻印	10	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 最大HP+Lv×5								
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: カバーリング可能								
メモリー:メセナくん	1							
効果: バックトラック時侵食値-10点								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

惚れた女の横顔を追っかけてアマゾネスを顕現させるティンダロス所属のオーヴァード。元来惚れっぽい性格で、一目惚れでオーヴァードに覚醒し、成り行きで美人オーヴァードが長を務めるティンダロスに所属する運びになった。自分の理想を投影したと豪語する筋骨隆々のアマゾネスを彷彿とさせるような従者たちを召喚し、一般市民や同僚を守ることを主な生業にしている。行動理念はいたって単純、惚れた女を全力で守るただそれのみであり、所属する組織が掲げる思想とか、UGNとFHの右左だとかは至極どうでもいらしく、お近づきになりたい上司である美奈瀬の指示にただしたがって現場に赴き、もしかしたら命の恩人であるあのボディガードに会えるんじゃないか〜かな〜という希望を抱きながら、そんな思惑とは関係のない初対面の同僚を口説くという生活に充足ききっている。最近この仕事を続ける理由とかすらさっさと言えばカッコーいーなーなんて思ってるけど特にポリシーとかは見つけられていない。

これといって夢もなく、惚れた女の尻を追いかけられるばかりの無為な半生を過ごした彼は、突如としてオーヴァード絡みのテロ事件に巻き込まれる。銃弾の雨にかすめられ、重傷を負った彼は裏世界の事情に巻き込まれた一般人の一人としてその生涯を終えるはずだった。しかしながら、彼女が彼を守った。仕事を全うしたGNのエージェントか、慈悲深いFHのチルドレンか、それとも報酬につられたイリーガルか。彼女の正体は見当もつかなかったが、地べたに倒れ伏す彼を抱きかかえた彼女はその身を挺して彼を守った。薄れゆく意識の中、凛々しい雰囲気を持った彼女に一目惚れをした彼は、またこの美女と巡り合いたいと心の底から願ってしまった。それが彼の覚醒のきっかけである。

うすぼんやりとした記憶をもとにした命の恩人の御姿が従者たちに投影されると彼は語っている……しかしながら、少なくとも彼を救った女性ボディガードは、彼と同じく従者使いの凛としたたすまいをしたグラマーな麗人であり、少なくとも鎧甲冑を身に纏った筋骨隆々のアマゾネスではない。臆げな意識のもと彼女の性癖が反映されたその理想像は本来の彼女とは遠くかけ離れたものではなく、その姿を追い求める彼が例えその命の恩人と相対したとて、その正体最後まで気づくことはないかもしれない。しかし彼は、そんな命の恩人と巡り合うために今日も裏の世界に身を墮としていく。惚れた女を口説く片手間に。